

## 県交通安全施設業協会「子供を守ろうプロジェクトIN久留米」実施

子供たちの事故防止、速度抑制の「イメージハンプ」設置や「飛び出し注意」の標識設置



浅田理事・星子副会長・田井局長の協会関係者

交通安全施設工事業者ら100社で組織する（一社）福岡県交通安全施設業協会（田中賢哉会長）の令和4年度「子供を守ろうプロジェクトIN久留米」が12月12日～15日までの4日間、久留米市諏訪野町の西国分小学校周辺で実施された。次世代を担う子供たちの交通事故を防止しようと関係業界団体が全国的に展開しているもので、同協会では第5回目の開催。小学校周辺の通学路にドライバーの減速効果を高める「ゾーン30+イメージハンプ」や「飛び出し注意」・「学校等あり」の標識設置、「交差点注意」

のカラー舗装等を施工し、学校関係者や地域住民の事故防止に役立つものと期待されている。

「IN久留米」のプロジェクトには、同協会筑後地区会員の(株)久留米道路施設（浅田実弦社長）、(有)木元産業（木元たち子社長）、(株)誠和興建（末次幸子社長）、寺崎工業(株)（寺崎光社長）と賛助会員の(有)ダイヤモンド久留米（久留米市）、日本ライナー(株)九州営業所（福岡市）、スリーエムジャパン(株)福岡支店（福岡市）などが参画。「ゾーン30+イメージハンプ」8か所、「飛び出し注意」の標識4か所、「交差点注意」の路面標示3か所、通学路の「カラー舗装」延長90m、歩道の外側線の路面標示など交通安全施設の新設及び更新作業が行われた。

施工最終日の15日は、筑後地区の総括責任者で、協会理事の浅田社長（㈱久留米道路施設）や協会から星子洋満副会長（双葉工業㈱）と田井晴彦事務局長が施工現場を視察。「交差点注意」のイメージランプや「飛び出し注意」の路面標示、カラー舗装工事などが行われたが、それぞれの会員が専門の機械や器具などを使い、経験豊富な施工技術を駆使して、わかりやすく、ピカピカのきれいな交通安全施設を仕上げていた。

施工作业に携わった総括責任者の浅田理事は「慣れない事前準備でいろいろ苦労もありましたが、私たちの協会は交通安全が第一であり、子供たちの安全を守ることも大きな使命です。西国分小学校は、市内で生徒数が最も多いマンモス校で、学校周辺が住宅密集地でもあり、交通事故の危険性が高く、安全確保が求められていました。このプロジェクトによって、子供さんたちの交通事故が減り、少しでも地域の安全・安心に貢献できればと思っています」と活動実施の喜びを語り、星子副会長も「会員さんらの協力で、立派な安全施設が完成し、子供さんたちが事故なく、安心して学校生活を送れるようになるものと期待しています。今後もこの活動を継続していきたい」と語っていた。

同協会では、来年1月11日に久留米市役所を訪問し、関係者に施設の目録贈呈を行うことにしている。

